大津市 Education center 教育センター
所報
No.209
令和４年３月 発行
〒520-0814
滋賀県大津市本丸町６番５０号
電話　077−522−1910
Ｆａｘ　077−522−2297

「子どもの学ぶ意欲がどんどん高まる」ある授業の光景から

教育部次長　人見 和宏

教員の仕事は、子どもに教え、育てること。私たちはそう思い込んでいます。しかし本当でしょうか？

先生はたくさんの知識をもっており、未熟な子どもたちに知識を教え、授けるのだ、と考えてしまうと、子どもは先生より劣った存在に見えます。この理屈では、先生がいくら上手に教えても、先生未満の子どもしか育たないことになります。

『子どもたちは、すばらしい力をもち、学ぶ意欲に満ちあふれた存在である』と捉えると、子どもの姿がまったく違って見えます。先生として「どう教えよう」と考えるのではなく、子どもの力を引き出す支援者として「どう問いかけて気付かせよう」という発想をもてるようになります。

およそ 10 年前。大津市立小学校4年生の社会科の授業です。導入で、先生が山の地域の写真をモニター画面に大きく提示しました。

※Ｓ＝児童の発言、 Ｔ＝先生の発言
S1：木がいっぱい。
T1：山に囲まれているので木がいっぱいありますね。
　季節はいつかな？
S2：(多くの児童が口々に)秋！
T2：なんでわかりますか？
S3：(口々に)紅葉(こうよう)してる。
T3：うん、紅葉(こうよう)が見えるね。
S4：先生、“こうよう”ってなんですか？

本時は、滋賀県のさまざまな地域の違いに気付き、その特色を学習していく内容。この導入では、次々と写真を見せてテンポよく授業を進めたい場面であり、S4の質問は先生の想定外のものです。あなたが授業者なら、S4の発言にどう反応しますか？

子どもは未熟で劣っている存在と考えていると、先生は「“こうよう”とは、気温が下がって…」とあわてて説明し、「教え」ようとしてしまいます。

先生の心の中に「ちゃんと説明して教えた」という自己満足は残るかもしれませんが、先生から教えられ、与えられた知識は、子どもたちの中に残らないと心得ましょう。後日「前の授業で教えました！」などと言うのはもってのほかです。

この先生はS4の質問を取り上げ、次のようにつないでいきました。

T4：“こうよう”って誰か説明できる人いますか？
S5：(口々に)説明できひんけど…
S6：(すばやく辞書を取り出しながら)こ・う・よ・う？
T5：辞書で調べるといいね。○○さん、速いね。

T4からは、自分の言葉で説明しようとする児童がきっといるはずだ、と子どもたちの力や学ぶ意欲を信頼している姿勢が感じられます。T1，3，5では子どもの発言を認め、T1，2，4では問いかけ、T5では励ましほめています。

T1からT5まで、先生は一度も「教え」ていないのに、児童はどんどん自分たちで学ぼうとしています。自分たちで調べ、気付き獲得した知識は、子どもたちの中に残り続け、生きて働く力となっていくのです。

先生が教えることを少し我慢して、子どもに問いかけ励ましていくと、子どもたちの意欲はどんどん高まっていきます。あなたも、キラッと輝く子どもの力を授業の中で見つけ、引き出してみませんか。

3学期に開催した3回の初任者研修は、全てオンラインで実施しました。
集合研修と同じように学びを深めるため、また初任者同士のつながりを絶つことのないよう、
グループでの協議や交流の時間も大切に実施しました。研修内容の一部を紹介します。

初任者研修（小）　1月18日/20日

ミドルリーダーによる授業づくり研修

オンラインでの開催となりましたが、算数科の授業づくりについて、ミドルリーダーによる講義・演習を行いました。初任者はタブレットを使ったデジタル教科書の活用の仕方など、明日から実践できる取組や専門的な指導方法を学ぶことができました。

ミドルリーダーもこれまでの経験を振り返り、授業づくりついて改めて考える機会になったようです。

初任者にもミドルリーダーにも、互恵性のある研修が実施できました。

〇受講者の感想

【初任者の声】

- 同じ学年の先生方と授業を考えてみて、新しい視点が見つかりました。子どもの反応を考えながら、一緒に授業をつくれたことで、これからの授業が楽しみになりました。
- 先輩の先生の授業を見て、指導のポイントを知ることができました。アンテナを高くし、子どもたちを見て授業をしていこうと思いました。

【ミドルリーダーの声】

- 研修の講師となることで、これまでの実践を振り返り、言語化してまとめることができました。また初任者に指導することで何より自分が一番学びになりました。

初任者研修（小・中）　2月1日/3日

地域に学ぶ～大津の歴史を学ぶ～

１年間の研修計画に、『地域に学ぶ』という全３回のシリーズを位置付け、大津のことを学ぶ機会づくりをしてきました。大津のことをより深く知るだけでなく、訪れた施設の方とつながることで、子どもたちの学習に還元していくことを目的としています。

今回は大津市歴史博物館に行けませんでしたが、木津副館長にオンラインでご講義いただきました。

〇受講者の感想

- 大津市の歴史がとても深いことを知りました。また、大津市内でもそれぞれの地域によって様々な歴史的背景や特色があることも知りました。大津市歴史博物館の方の話を聞いて、とても勉強になりました。
- 大津市に勤務する者として、もっと深く大津のことを知りたいと思いました。お話を聞いて、大津市歴史博物館にもぜひ行きたいと思いました。教師自身が知ることから始め、子どもたちの“ふるさと”に対する誇りを育んでいきたいです。

初任者研修（小・中）　2月15日/17日

閉講式

この１年を振り返り、初任者一人一人が「教師としての志」というテーマで所信表明を行いました。また、大津市小・中学校校長会を代表して、２名の校長先生に、ご講話いただきました。

〇受講者の感想

- 校長先生から貴重なお話を聞くことができ、とても充実した時間でした。自分の未熟さを感じながらも、この仕事のすばらしさを改めて感じました。子どもに憧れられる存在でありたいと強く思いました。
- 初任研ではたくさんの同期と出会うことができてよかったです。悩みを打ち明けたり、授業のことを相談したりして、とても心強かったです。時には不安に思っていたことも自分だけじゃないと勇気をもらい、また同期の頑張る姿に刺激をもらい、1年間頑張ることができました。

「わたしたちの大津」編集委員会

今年度は、小学校3年生・4年生社会科副読本「わたしたちの大津」第18版（改訂版を含む）に対応した教師用指導書を作成しました。指導書の内容は、単元ごとに「目標」「評価規準」「指導上の留意点」「指導時数」「単元の学習展開」「資料」「ワークシート」で構成しています。副読本に掲載されている本時のめあてを生かして、児童の主体的・対話的で深い学びが実現するよう作成しました。

この指導書は、『わたしたちの大津 Web ページ』に掲載し、各小学校で活用できるようにしています。ぜひご活用ください。

令和3年度　大津市教育センター研究員によるテーマに基づく研究

児童が主体的に関わり合い、互いに高め合う学級づくりの研究
―学級力向上プロジェクトを活用して―

大津市教育センター　研究員　増田　由香里

学校現場では、特別な支援を必要とする児童の増加や核家族化、急激な都市化による地域環境の変化により、社会性を身に付けられずにいる児童の増加が問題となっています。そこで、早稲田大学教職大学院教授田中博之氏考案の「学級力向上プロジェクト」を活用し、子どもたちの人間関係力を育成する新たな学級経営の実践研究を行いました。子どもたちと共に学級の課題を見つけ、その解決のための方策を考え、実施することで、子どもたちが互いに協力し、学級を改善するという目標に向かって活動をする姿が見られました。また、目標を可視化し、子どもたちと共に担任も意識することで活動を継続することができました。

―学級力向上プロジェクト―

R（診断）	P（計画）	D（実行）	C（評価）	A（改善）
学級力アンケートの実施	アンケート結果を児童に開示 学級の課題把握・改善策の計画	学級で改善策を実行	学級力アンケートの実施	さらなる改善策の計画・実施へ

【改善策】〇年△組授業ルールづくり、パワーアップめあてづくり、構成的エンカウンター、全員発表ができたら花丸をもらう、ソーシャルスキルトレーニング
国語科の話す・聞く活動で学級力の向上について話し合う

令和3年度　学校園教育研究委員会

志賀北幼稚園５歳児

石山小学校　６年生

研究会の様子

これからの時代に求められる資質・能力と学校段階における接続を探る
～調整力につながる『伝え合う場面』に焦点をあてて～

保育・授業の参観を伴う研究会を実施しました。次年度は引き続き中学校の授業参観も行い、研究を深めて参ります。実際の子どもの姿から各学校段階の見方・考え方を交流し、幼小中一貫した資質・能力を一層確実に育むための支援方法を考えていきます。

若手教員育成学校園訪問

大津市教育センターでは、主に経験年数が６年以内(幼稚園は５年以内)の若手教員（講師を含む）を対象に、幼稚園、小学校、中学校への訪問指導を実施しています。

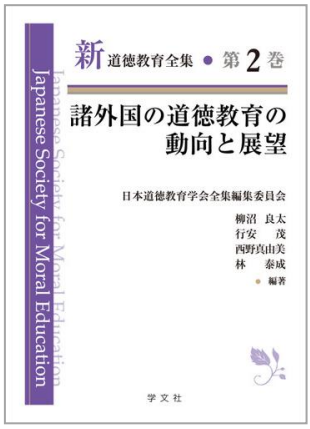
今年度は、幼稚園３３人、小学校１３１人、中学校５１人、合計２１５人の先生方に対して学校園を訪問し、保育・授業を参観する中で、授業づくり、学級経営について相談及び助言を行いました。次年度も学校園からの要請に応じて訪問させていただきますので、ぜひご活用ください。

教育センター図書をご活用ください

『 貸出図書紹介』
コーナー

『新 道徳教育全集第１巻～第5巻』

日本道徳教育学会全集編集委員会 編著
学文社



当センター11月実施の中堅教諭等資質向上研修（小・中）でお世話になりました、京都産業大学：柴原　弘志先生より、ご寄付いただきました。

総合的な視点で、検討・分析しつつ「これからの道徳教育」を提言されています。

是非ご活用ください。

教育の先導役を果たす道徳教育。
第1巻：本質的な部分の基本的な道徳教育の変遷・展開・展望を押さえる。
第2巻：諸外国の道徳教育の倫理・歴史・実践などについて解説し、吟味するとともに、日本の道徳教育の在り方についても様々な提案・提言を行う。
第3巻：幼児教育や小学校教育段階における道徳教育の考え方やその具体化などを視野に入れて編集。子どもの発達の流れに即し、論考や実践例などをあげ考察・整理する。
第4巻：中学校、高等学校、特別支援教育における道徳教育について、その意義も含め本質的な理解の深化と具体的な取組への参考となる内容を掲載。
第5巻：わが国の道徳教育について学校、家庭、社会という３側面から、道徳教育の歴史や現状、課題などを踏まえつつ、これからの道徳教育の在り方を視座していく。

学文社より

教育センターでは授業づくりや、園児・児童生徒支援に役立つ図書を貸し出しています。
貸出の詳細は、令和３年６月発行の所報№207 をご覧ください。